

日立第一高等学校の震災被害状況

日立第一高等学校 教諭 名和俊之

1. 当日の学校の状況

当日は通常の授業日であった。地震発生時は6限が始まっておよそ10分程度たった後であった。

2. 地震発生時の様子

私は2年SSクラスの科学研究の授業で特別教室棟4階PC室にいた。初期微動が非常に長かった。その後、非常に大きな本震があった。立ってられないほど大きな揺れで、すぐに生徒に机の下に隠れるよう指示を出した。揺れの音も相当のもので、ほとんど叫ぶように大声を出して指示していた。この揺れによって、PCデスクは大きく揺さぶられ、ディスプレイは横に飛んでいった。重ねてあったスチールの大きな書架の上段が横に滑り、落下した。天井に備え付けられていたエアコンが外れ、斜めに傾いていた。揺れが少々収まってきたところで校庭に避難した。

茨城県沖の地震は全員が校庭に避難した後で起こった。大きな揺れであったにもかかわらず、皆冷静に避難することができた。

3. 地震発生後の対応（待機・避難の様子、避難場所の様子）から生徒の下校まで。

校舎は完全に立ち入り禁止となったが、貴重品の回収のみ立ち入りが許可され、担任の引率のもと教室へ取りに戻った。こののち、自宅が近く徒歩で帰宅できる者は下校させることとなった。また、自宅や保護者に連絡をとらせ、迎えに来てもらうように指示をした。残っている生徒はしばらく校庭で待機していたが、気温が下がってきたため、安全を確認したのち、体育館の1階の格技場を待機場所とした。ここで、最後の生徒は翌日12日の夕方まで過ごすこととなる。教員も帰宅は各自の判断となった。

待機中の生徒は、突然のことに驚き茫然としていたり、泣いていたりした生徒もいたが、多くの生徒は長期の待機時間に備え、近くのコンビニやスーパーから食料などを購入してきた者もいた。私は11日の午後5時に学校を出たため、その後の様子はわからない。

4. 校内の被害状況

- ①普通教室 目立った被害なし
- ②特別教室棟 壁に多くの細かいひびが入った。大きなものはX字に割れていたが、補修をすれば問題ないとのことであった。
- ③地学準備室 多くのものが落下していた。東側の机などが全て50cmほど前に出た。
- ④体育館 最も新しい建物で、被害は全くなかった。

5. 当日の学校周辺の状況

学校周辺では電気、ガス、水道などのライフラインが長期にわたって止まることとなった。救急車両のサイレンが至る所で鳴っていた。信号が止まり、6号国道を始め、至る所で

大渋滞が発生した。保護者の中には多賀（学校から 10 km程度）から迎えに来るのに、数時間かかったと聞いた。

6. 地震後、学校再開まで

常磐線の勝田以北が非常に長い期間運休になってしまったので、常磐線が開通するまで授業は休止となった。震災後の登校日は3月31日で、各クラスで簡単な終業式、通知表配布を行ったが、登校不可能な者が多数いた。4月7日の入学式は予定通り執り行い、授業が再開できたのは、4月9日であった。しかし、4月11日の余震によって、4月12日は休校となった。

生徒への連絡はもはや連絡網の出番はなく、各生徒の携帯電話へ一斉メールで行い、安否確認で、各生徒の携帯電話へ一度電話をかけた。

教職員は通常通りの出勤であったが、ガソリン不足により出勤できない遠距離通勤の教員も多数いた。

また、生徒の中には自宅に被害があり、避難所から登校した生徒もいた。

7. 今回の地震について反省・改善すべき点・提言等

県北地区であり、最大震度 6 強であったことを考えると、建物の被害もなく、人的被害（生徒・教員等）もなかったのは、幸せなことであると感じている。これも、これまでの避難訓練の賜物であるので、今後とも避難訓練はおろそかにせず、いざという時に役立てられるようにしていかななくてはならないと思う。

実は PC 室の傾いたエアコンは私の頭上にあり、私自身間一髪の状態であったことが後からわかり肝を冷やした。教員は生徒の安全の確保を優先するあまり、自分の身の安全に気を配っていないことがありがちだと感じた。

8. 写真

残っている写真がほとんどなく、特別教室棟のひびの写真が数枚あるだけであった。



特別教室棟 1 階の割れた柱



特別教室棟 1 階の外壁のひび